

ISPU NEWS

ISHIKAWA PREFECTURAL
UNIVERSITY NEWS

42
2026 SUMMER



左から:環境科学科3年
松田 桃佳さん
中尾 明穂さん
島 賢翔さん
小野内 ののさん



体験するから、おもしろい。自然と地域に学ぶ環境科学



環境科学科では、生態系の保全や里山里海地域の活性化、地域循環資源の管理など、これからの地域と地球を支える学びが充実しています。実験や実習では、自然を見て、触れて、感じながら、環境を体験的に理解できるのが大きな魅力です。農学系大学としては全国でも珍しく、再生可能エネルギーの一つであるマイクロ水力発電システムを本格的に学べるのも本学の強みです。自然に学び、環境のスペシャリストを目指します。

ご卒業おめでとうございます

卒業研究紹介

大学生の総仕上げ！
学生の皆さんの学びの結晶である
卒業研究の一例をご紹介します。

卒業研究紹介

01



フリージア球茎の休眠に関わる遺伝子の単離と解析

生産科学科 三好 勇輝 さん

「エアリーフローラ」で知られる石川県の主要花卉フリージアは、春に花を咲かせる球根植物です。フリージアの球根は球茎とよばれ、花が咲き終わった後に成熟し、夏に休眠します。本研究では、フリージア球茎において、どのような遺伝子が休眠に関わっているのかを探索し、休眠の維持に関与している遺伝子を見出すことができました。この成果は、人為的な休眠制御技術の確立につながるものと期待されます。



卒業研究紹介

02



都市山村交流の実態の可視化と課題 —大学生の活動に着目して—

環境科学科 城岸 栄利花 さん

過疎地域と大学の連携は全国で進められています。本研究では、都市山村交流が盛んな富山県南砺市利賀村を対象に、アンケートや聞き取り調査から交流の実態を明らかにしました。一見うまくいっているように見える取り組みでも、地域と学生の間でどの活動に力を入れるべきかについて認識のずれがあることが分かりました。交流は情性的に続けられがちですが、実態を可視化することでより充実した関係へと発展させられると考えています。今後も調査を続け、より良い交流のあり方を探っていきます。



卒業研究紹介

03



疑似ビタミンB₁₂が 生体に与える影響の解析

食品科学科 山本 祐樹 さん

ビタミンB₁₂は、赤血球の形成や神経機能の維持に重要な栄養素です。一方、腸内細菌によって、ビタミンB₁₂の構造の一部が異なる「疑似ビタミンB₁₂」が合成されることが知られています。しかし、疑似ビタミンB₁₂が生体内でどのように振舞い、生体にどのような影響を与えるのかはよくわかっていません。そこで私は、疑似ビタミンB₁₂の体内動態と生体への影響の解明を目指しています。



卒業研究紹介

04



大腸菌による 色素クロセチンの発酵生産

食品科学科 北山 実那 さん

遺伝子を組み換えた大腸菌で、植物由来の天然成分を生産する研究を行いました。対象は、サフランのめしべに含まれ、健康食品の原料にもなる黄色色素「クロセチン」です。導入する遺伝子の由来種や培養温度を検討した結果、ペニノキ由来の遺伝子導入と低温培養により、生産性が向上することが分かりました。さらに、大型培養器（ジャーファーマンター）を用い、さらなる生産の向上を試みました。この研究により、微生物が持つ発酵の力を利用して、原料となる糖から植物由来物質を迅速かつ安定的に供給することを目指しています。



Nice to meet you!



新入生から はじめましての ごあいさつ。

今年も多くの県大生が
誕生しました。ピカピ
カの1年生から皆さま
へ、はじめましてのご
あいさつです。

- 1 この学科を選んだ理由
- 2 大学に入学してやりたいこと



1 将来は生物に関わることがしたいと思っており、本校の生産科学科で取得しやすい家畜人工授精師に興味をもったため。

2 TOEICの勉強を頑張って810点以上を取ることで、アルバイトなどを通じて社会経験を積むこと、全力で青春を楽しみたい。



1 植物の栽培や病気などについて興味があり、この科なら自分の学びたいことが学べると感じたため。

2 植物に関することを幅広く学び、得た知識を生かして研究室で人の役に立つ研究をしたい。



1 生物学や農業について、実際に実験や農場での実習で学びたいと思ったから。学校の敷地内に畑などがあると魅力的だと思った。

2 分子系の実験で電気泳動やシーケンサーの実験をしたい。遺伝的に農業を勉強してみたい。サークルや部活も見たい。



1 昔から生き物が好きで、土木関連のことにも興味があり、この学科ではそのどちらも学べると思ったから。

2 専門的な知識を身につけるとともに様々な学内活動にも積極的に参加したい。



1 大好きな動物について詳しく学びたいと思ったから。自然に触れたいと思ったから。

2 フィールドワークにたくさん行きたい。サークルを楽しみたい。動物のことを勉強したい。



1 野生動物や自然環境保全に興味があって、環境科学科のHPで野生動物というキーワードを見て決めました。フィールドワークが多く周りも自然豊かなことも決め手。

2 自動撮影カメラで色々な生きものを撮りたいです。また、野生動物(哺乳類)の行動について学びたい。



1 小さいときから食べることが大好きで、食にとっても興味があるため、将来食品に関連する職業に就きたいと思ったから。

2 真面目に勉強して単位をとりつつ、友達と海外旅行にいったり楽しい思い出をたくさんつくりたい。



1 発酵食品について研究し、地元である石川県の食を盛り上げたいから。

2 サークルやゼミなどの大学でしか経験できない活動を通して、沢山の人と関わることを楽しみたい。



1 石川の発酵食品について学びたいと考えたから。また、将来石川の産業に貢献したいため。

2 色々なことに挑戦していきたいです。特に、資格を取ることに力を注ぎたい。

ステキな県立大生を紹介! ACTIVE STUDENTS

イクティブ スチューデントズ

- Q1 どんな活動をしていますか?
- Q2 どうしてその活動をしようと思ったのですか?
- Q3 活動をしてみて学んだこと、よかったことはなんですか?



生産科学科2年
花野 真悠さん



A1 私はLEDダンスサークルに所属しており、年間4回ほどのステージを披露しています。去年はまちなか学生まつりや、県立大学20周年パーティーでもステージを披露しました。現在は、放課後等デイサービスの子供たちにダンスを教えるに行く活動もしています。

A2 小学校から続けていた卓球の場が大学になかったことと、ダンスは昔から好きで高校の文化祭で友達とステージにたったことがすごく楽しかったのが理由です。あとは、サークルの雰囲気がとてもフレンドリーだったからです。

A3 友達が出来たこと、学校生活を楽しく円滑に進めることが出来たことがよかったです。学科を越えた友達が出来るのはサークルのメリットだと思います。また、ステージに向けて練習するためにスケジュール管理を行い、学校生活も規則正しく行うことが出来ました。



環境科学科 修士2年
山本 日和里さん



A1 大学1年生の頃から里海サークルに所属し、砂浜に生息する絶滅危惧種イカリモンハンミョウの保全活動に取り組んでいます。生き物観察会などの環境教育イベントにも参加し、地域の自然環境への理解や地元の方々との交流を深めています。

A2 砂浜の自然環境が失われつつある現状を知り、能登出身の私にとって身近な自然を守りたいと思うようになったことがきっかけです。地域に残る貴重な砂浜環境を未来に残したいと考え、活動やイベントに関わっています。

A3 環境とそこに生息する生き物について学ぶことで、砂浜の見え方や感じ方がこれまでよりも大きく広がりました。以前は単なる風景として捉えていた砂浜を、多様な要素が関わり合う場として認識できるようになったことが大きな学びです。

New Comer!

共に学ぶ。新任教員の紹介。



Hello!

生物資源環境学部 生産科学科
植物分子生理学研究室

岡 義人 准教授

- 出身地
大阪府茨木市
- 趣味
テニス、ジョギング、
家族と過ごす時間



学生の
皆さんへ一言

興味をもった
ことに思い切って
飛び込み、新しい発見に
つながってください。

My 研究テーマ

植物が光や温度環境に 適応するしくみを探る研究

植物は光や温度など周囲の環境を感じ取り、成長のしかたを変えています。私は、植物がどのように環境の変化を受け取り、葉や茎の伸び、花を咲かせる時期を調節しているのかを研究しています。

附属農場
農場野菜園芸学研究室

木下 貴文 准教授

- 出身地
北海道旭川市
- 趣味
温泉巡り、歴史、
スポーツ観戦



学生の
皆さんへ一言

フィールドや
生産現場で実際に
作物を見て体験して
考えましょう。

My 研究テーマ

野菜が栽培できる時期をより長く、 たくさん獲れるようにするための研究

野菜の生産性向上や栽培可能な時期を延ばすための研究を行っています。特に露地野菜は、ハウスなどを使った環境調節がほとんどできないため、栽培時期が限られます。そこで、野菜が持つ能力を最大限に引き出すための生理生態学的研究や栽培技術の開発を行っています。

生物資源工学研究所
植物細胞工学研究室

山梨 太郎 助教

- 出身地
静岡県静岡市
- 趣味
バイク・スノーボード



学生の
皆さんへ一言

サイエンスを
楽しみましょう!

My 研究テーマ

植物の環境応答機構の解明

作物の生育効率向上に向けて、環境変動に適応可能な植物の作製を目指しています。特に気体湿度変化に適応するために体内の水分をどのように調節しているのかに興味をもって研究をしています。

大学キャンパス いきもの調査



ノビタキ



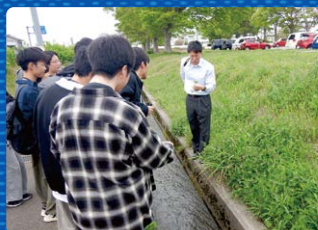
ギンリョウソウ

開催頻度 前期は毎週1回 活動人数 毎回、10名から20名
活動場所 石川県立大学キャンパスとその周辺(末松廃寺など)

自然を
見る目の解像度を
高めよう!



大学キャンパスを舞台に、図鑑や双眼鏡の扱い方、正確な記録手法など、野外調査の基礎技術を習得します。メインの活動は、毎週決まった時間に同じ場所を歩く「定点観測」です。身近な自然環境における生物相の季節変化を継続的に記録し、講義などの座学で得た知識を実際の現象と結びつけていきます。こうした日常的な観察の積み重ねを通して、身近な環境の変化に気がつくことのできる「自然を見る目の解像度」を共に高めていきたいと考えています。



環境科学科 植物生態学研究室
北村 俊平 准教授

ポケ ゼミ

ポケゼミは、学科・学年を問わず
興味・関心がある学生が集まって
課題に取り組む本学独自の
教育・研究システムです。





ココでがんばってるわいね!



専門品目は違えど、卒業研究などでの調査経験が現在の農業技師の業務に活かされています。

金沢市農業センター

久保 七希 さん

生産科学科 卒業生(学士:令和5年度)

金沢市役所の農業技師としてセンター内での栽培試験を担当しています。生産者が抱えている夏季の高温化による品質低下、病害虫の発生といった課題に対する解決策を考え、地域に普及させることを目的としています。今年度は加賀太きゅうりや、すいか等の試験に携わる予定です。試験の設計にあたり、在学中に得た知識を基礎として、より金沢市の農業の実態に即した形で栽培試験に落とし込むことがあります。卒業研究は水稲、入庁後は野菜と専門とする品目は変わりましたが、当時の調査の経験が活かされていると感じています。



在学中に学んだ食品や農業の基礎知識はもちろん、研究発表の経験も日々の業務に役立っています。

JJAのいち(野々市農業協同組合)

山田 佑葵 さん

食品科学科 卒業生(学士:令和4年度)

組合員の方の一部農作業請負や請負内容の把握と管理、ハウスでの米の苗管理、食品や生活物資の取り扱いや配達、6次加工品の製造・販売管理など幅広く行っています。特に農作業の請負については、組合員の方の田んぼの土づくりのサポート、田植え、稲刈りから玄米化など長期間にわたる内容となっています。講義や研究で学んだ食品や農業の基礎的知識と技術は、水稲における苗管理や田んぼの土づくりの知識の理解など、農作業の請負に関する点で活かされています。また、研究発表用の要旨やスライドを判りやすく作る技術は、6次加工品の販売実績の報告資料作成や、請負作業におけるマニュアルの作成などにそれぞれ活かされています。



水利学の学びで得た知見は、ほ場整備事業計画などの業務で非常によく使います。

石川県土地改良事業団体連合会 事業部 測量設計課

北八 星哉 さん

環境科学科 卒業生(学士:令和4年度)

石川県土地改良事業団体連合会(水土里ネット)の事業部測量設計課に務めています。私の部署では、田んぼを大区画化するほ場整備事業の計画、工事を行うための実施設計をしています。現在、能登半島地震にて被災した農業集落排水の下水管の復興業務にも取り組んでいます。水利学で学んだ流速・流量等の公式やその求め方は、事業採択前の計画時の業務で非常によく使います。用・排水路を更新する場合や規格の選定をする際に、大雨が降った場合に越水しないか、用水量として十分な流量が流下できるか、経済的に妥当であるかといった判断に活かされています。



業務に必要な新しい知識や技術を学ぶ際には、大学時代に培った柔軟な対応力が活かれています。

株式会社国土開発センター 計測補償事業部 計測部

加地 静宗 さん

環境科学科 卒業生(学士:令和4年度)

私は主に、GIS(地理情報システム)や測量に関する業務を担当しています。日々の業務では、地番図の更新や土地に関する情報を反映した図面作成のほか、GISを活用したシステム整備にも携わっています。また、UAV(ドローン)による空中写真の撮影や三次元モデルの作成などの三次元測量をはじめ、基準点測量や水準測量、GNSSを活用した現地測量にも取り組んでいます。大学では、さまざまな専門科目や実習に触れる中で、新しいことにも柔軟に対応できる力を身につけることができました。今は幅広い業務に携わりながら、日々新しい知識や技術を学んでいます。学生時代の経験が今の仕事の取り組み方につながっていると感じています。

令和7年度

能登半島地震 復興支援研究 プロジェクト報告会

2026.4.21



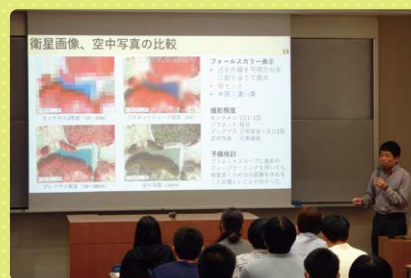
2024年元旦に発生した能登半島地震は、地域住民の生活に深刻な影響を与え、農業や山林にも甚大な被害をもたらしました。本学は、能登の一日も早い復旧・復興を後押しするため、地震発災直後から「農業生産、環境、食品」の各分野を中心に研究プロジェクトを立ち上げ復旧・復興を支援しています。

2026年4月21日(火)、K219大講義室にて「能登半島地震復興支援研究プロジェクト令和7年度報告会」が開催されました。当日は入学間もない1年生を対象としましたが、2～4年生や院生・教職員も加わり全体で100名以上が聴講し、大講義室がほぼ満席となるほどの盛況となりました。

報告会では、本学の教員より全9課題の取り組みが発表されました。農業現場でのスマート農業技術の導入や伝統発酵産業の支援をはじめ、ため池や斜面の災害リスク分析、子どもたちの体力回復プロジェクト、里山里海を活かした創造的復興など、農学系大学の知見を活かした多角的な研究成果が共有されました。参加した1年生からは、「県外から来たため能登地震にはあまり関心がありませんでしたが、今回、先生方が復興に向けて様々なプロジェクトを行っているのを知ることができました」などの感想が寄せられました。教職員のみならず、新入生にとっても本学の地域貢献について深く知る大変有意義な機会となりました。



宮川学長の開会あいさつ



環境科学科 藤原准教授によるため池被害予測に関する研究紹介

能登半島地震 復興支援研究 プロジェクト 事例紹介

畜産生産者 連携支援



災害時断水下における
乳牛トリアージ基準の検討

地震後の 山地保全と 植生回復技術



市民参加で種子から始める
里山再生のころみ

田園資源の 活用による 能登復興支援



自立型メタン発酵システムを
被災地のスーパーに設置

UNDER CONSTRUCTION

体育館の建替工事が始まりました！



イメージ

新体育館はアリーナの拡張や、空調設備・太陽光発電の導入により、快適な運動空間の創出と環境負荷の低減を両立させた施設です。2階にはトレーニングルームや多目的室を備え、授業や課外活動などで幅広く活用されます。さらに、災害時における避難所機能を強化し、地域の安心と安全を支える拠点となることを目指しています。



学生インタビュー動画を 作成しました



大学紹介 学生インタビュー 公開中

各学科の魅力を
学生が語ります。



石川県公立大学法人
石川県立大学
Ishikawa Prefectural University

〒921-8836 石川県野々市市末松1丁目308番地
Tel:076-227-7220(代) Fax:076-227-7410
E-mail:jimu@ishikawa-pu.ac.jp
https://www.ishikawa-pu.ac.jp/

最新情報は
ホームページから



プレゼントコーナー 応募締切:2026年8月31日(月)

今後のよりよい広報誌づくりのため皆様のご意見をお聞かせください。
アンケートにお答えいただいた皆様の中から抽選で...

「エクラタンの焼き菓子 詰め合わせ」を5名様にプレゼント！

※アンケートは石川県立大学Webサイトにある
フォームからご回答ください。
※当選は賞品の発送をもってかえさせていただきます。



アンケートは
こちらから

